

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 12日

事業所名 スケッチブック

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	5		事故やトラブルにならないよう に、バージョンで区切り遊ぶ スペース等の確保をしている。	
	2	職員の配置数は適切である	5		定められた配置人数以上利用 児の障がい特性に合わせて、配 置数を確保している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化 の配慮が適切になされている		5	人工内耳や補聴器の装 用が必要なため、転倒 がないようにしている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目 標設定と振り返り)に、広く職員が参画して いる	5		日々の記録や毎日の ミーティングで、利用児 の振り返りをおこなっ ている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりア ンケート調査を実施して保護者等の意向等 を把握し、業務改善につなげている	5			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	5			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている		5		
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機 会を確保している	5		全体研修以外にも、必 要に応じて事業所内 での研修を行っている。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護 者のニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	5		アセスメントシート、 家庭調査表、聴力 レベルを半年に1回 記入していただく	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するため に、標準化されたアセスメントツールを使用 している	5			
	11	活動プログラムの立案をチームで行って いる	5		ミーティングで提案を全体に示 し、意見を広く集めてから決定 している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫し ている	5		利用児が楽しんで活動に取り組 めるように、広くアイデアをスタッ フ全体から募っている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をき め細やかに設定して支援している	5		社会資源の利用等で平日は ルールやマナーを練習して、長 期休暇で実践するようしている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活 動を適宜組み合わせ放課後等デイサービ ス計画を作成している	5		自尊心や達成感を考 えて、チーム分けや 内容の工夫をしてい る。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われる支援の内容や役割分担に ついて確認している	5		毎日ミーティングで 確認している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを し、その日行われた支援の振り返りを行い、 気付いた点等を共有している	5		毎日のミーティ ングで必ず支援の振 り返りを行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを 徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			
18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイ サービス計画の見直しの必要性を判断して いる	5		相談支援員との3か月 毎のモニタリングと保護 者と半年毎のモニタリ ングで見直しを行って いる。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み 合わせて支援を行っている	5				

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5		指導員からの利用児の情報を吸い上げ、全体でまとめてから代表して参画している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5		毎日の担任との引継ぎで、情報共有を確実にを行うためにメモを必ず取り、各利用児の連携を行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5		喀痰吸引の受け入れは行っている。訪問看護と連携	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5		児童発達支援事業所との情報交換に努めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		5	情報の提供や共有の準備はあるが、現在該当する利用児がいない。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5		定期的な専門家や外部講師の助言や指導は受けている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		5	コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症対策により、その機会がとて	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		5	さわら障がい福祉ネットワーク等に参加している	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		送迎時を利用して、保護者と共通理解が持てるように努めている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5		手話や指文字でのコミュニケーションの必要に応じて、送迎時のスタッフ配置や利用児の様子を手話等も使い伝えるように努めている。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		変更があった場合は、丁寧な説明に努めている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		スタッフ間で情報を共有してから、必要な助言や支援を行うようにしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5	保護者会がない。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5		苦情窓口を1つにして対応。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5			
	35	個人情報に十分注意している	5			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5		あらゆる手段でお互いの意思の疎通ができるように、視覚的に表すことを意識し、手話、口話、筆談等を行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		5		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5			
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		年3回の避難訓練の実施。	
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		全スタッフ虐待防止の研修参加。	
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			5 身体拘束は基本的に行わない。	
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5		アセスメントシートに保護者より記入してもらい対応。	
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		スタッフ全員で回覧しミーティングで情報を共有。	